

生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第330号



「ハンセン病を正しく理解する週間」(6月20日～26日)です。

毎年6月下旬に、「ハンセン病を正しく理解する週間」が実施されます。この週間を契機に、ハンセン病について正しい知識と理解を持ち、差別や偏見のない社会をつくりましょう。ハンセン病は、かつて「らい病」と呼ばれていました。しかし、「らい」は長い間差別と偏見を受けてきた歴史があり、人々に正しい認識をもってほしいとの願いから、菌の発見者であるノルウェーの医学者ハンセン博士の名をとって「ハンセン病」と改められました。

ハンセン病は、**らい菌による感染症で、遺伝する病気ではありません。**らい菌はとても感染力が弱く、また、仮に感染したとしても、発病するのはそのうちのごくわずかな人にすぎません。実際、明治以来、ハンセン病の療養所で働いていた職員でハンセン病になった人は一人もなく、この病気がいかに感染しにくいかが分かります。

らい菌に感染して、なおかつ発病した人でも、病気の程度には個人差があり、このため自然に治る人もいれば治療しなければ治らない人もいます。また、1943年に抗ハンセン病剤による効果的な治療法が確立したからは、ハンセン病は治癒する病気となりました。

今では、**早期発見と早期治療により、ハンセン病は後遺症を残すことなく、外来治療によって治癒する病気となっています。**ハンセン病を正しく理解することでハンセン病に対する偏見や差別のないように、この週間を境にハンセン病について考えてみてはどうでしょうか！

梅雨はなぜ梅の雨って書くの？

「梅雨とはどうして梅の雨と書く？」諸説ありますが、梅雨は昔から中国では「**梅の実が熟す頃に降る雨**」という意味で梅雨(ばいう)と呼ばれていたそうです。恵みの雨と呼ばれ、梅にとっては体が膨らんで成長する大事な季節なんですね。その梅雨(ばいう)が江戸時代に日本に伝わったことで、日本では梅雨(つゆ)と呼ばれるようになりました。読み方は、露(つゆ)から連想されたともいわれ、梅雨(つゆ)と呼ばれるようになる前までは現在6月ですが、陰暦の5月の「さ」に、水垂れで「みだれ」で「五月雨(さみだれ)」と言われていました。

当たり前のように、梅雨(つゆ)と書いていましたが、実際に調べてみると漢字の組み合わせにもしっかりと意味がありその季節ごとを表すものにちゃんとなっているんですね。

社会教育関係の行事について

公民館講座について

コロナの感染拡大により延期になっておりました公民館講座は、5月21日より開始となりました。また、コロナ感染防止対策の一環として防災センター入口に自動検温器を設置致しましたので、来館の際は検温を必ず実施するようお願い致します。



イベント告知

6月13日に、まほろば館前にて、すももフェスタと、**自然の家がやってきたin大和村**を実施します。様々な創作・体験コーナーを準備しておりますが**事前申し込みが必要**ですので教育委員会までご連絡ください。



本(ふん)の読(ゆ)む中果てやねん？

「らんかん橋節の橋や、吾きゃシマぬ 橋ど！」と論争になることがたまにありますね。文英吉氏は、『奄美民謡大観』で「七夕物語を思わせる唄で、しばしば洪水に見舞われて、橋を奪われ幾多の悲劇を生んできた大島では、当然生まれ出なければならぬ唄のようにも思われる。」と書いています。入佐一俊著『奄美土木史年表』によると、「1886年(明治19年)、大和川に架橋される。奄美で最初の欄干のある橋であったため、通称「欄干橋」と呼ばれる。」とあります。「欄干」がついた「奄美初」の橋だということで誇らしい気持ちになりました。しかし、歌詞からは、山の麓にある小さな橋のように思えます。喜界町出身で「片倉譜」を考案された片倉輝男氏は、「名瀬のらんかん山の麓にありそうな橋を連想しそうだが、架空の橋で場所の特定はない。」と言っています。一方、大和村役場職員だった森山博勝氏(思勝)は、「ウォートルスとマシュの二人の悲恋物語から名前がついた。」と言っています。1864年(元治元年)に、薩摩藩は金久、久慈、須古、瀬留に近代的で洋風の白糖工場を建設しました。住民は技師らの居宅を「蘭館」、そしてその山を「蘭館山」と呼び親しんでいました。その建設の中心となったのが貿易商人グラバーの紹介で来島したウォートルスです。その後、建築界では「ウォートルス時代」と言われるまでに活躍します。しかし、本来の白糖の生産は燃料不足や台風などの様々な要因で稼働期間は短く、上手くいきませんでした。「それは、ウォートルスが付き合っていた女性の名前が「マシュ」だったからだ。もし、「サタ」という名前だったら上手くいったかも。」と冗談に言う人もいます。ちなみに二人の別れは『くるだんど節』に唄われています。

奄美では文字ではなく**口承されてきたので、限定できない**ことがとても多いです。「欄干橋」と「蘭館橋」もその一つかも知れません。